

美の郷ゆざわジオパーク構想

大地がつく創り育てた

美の郷 ゆざわ

平成23年7月
湯沢市ジオパーク推進協議会

目次

はじめに	1
------	---

1. 湯沢市ジオパーク構想策定の背景と目的

(1) ジオパーク構想策定の背景	3
(2) ジオパーク構想策定の目的	4
(3) 期待される効果	4
(4) 構想実現の目標	5

2. ジオパークのテーマと特徴

(1) ジオパークの名称	6
(2) テーマ	6
(3) 特徴	7

3. ジオサイト候補地

(1) ジオサイト候補地について	20
(2) ジオサイト候補地全体マップ	21
(3) ジオサイト候補地各サイトマップ	22

4. ジオパーク認定に向けたアクションプラン

(1) 日本ジオパークネットワークへの加盟のために	36
①ジオサイト等の調査	
②ジオパークの運営母体の整備	
③住民への普及	
④保護と保全、研究・教育への活用、ジオツーリズムによる地域活性化	
⑤加盟申請	
(2) 世界ジオパークネットワークへの加盟のために	37
①ジオサイトの磨き上げ、物語への肉付け	
②一步進んだ取り組みの実施	
③運営母体の組織強化と市民の盛り上がり	
④加盟申請	
(3) ジオパークの継続整備のために	38

はじめに

ジオパークとは

ジオパーク (Geo Park) という言葉は、「ジオ (Geo)」という言葉と「パーク (Park)」という言葉で作られています。このうち、「ジオ」は地球や大地を意味し、「パーク」は公園を意味します。ジオパークを直訳すると「地球の公園」や「大地の公園」になり、地球や大地を楽しむ自然公園のことです。

ジオ (地球) に親しみ、ジオを学ぶ旅、ジオツーリズムを楽しむ場所がジオパークです。山や川をよく見て、その成り立ちとしくみに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所です。足元の地面の下にある岩石から宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、山と川と海と大気とそこに住む生物について考える、つまり地球を丸ごと考える場所、それがジオパークです。

ヨーロッパと中国を中心に、世界ジオパークネットワーク加盟の質の高いジオパークが77ヶ所あります。日本には、2011年3月現在、洞爺湖有珠山とうやこうすざん、糸魚川いといがわ、山陰海岸さんいん、島原半島しまばらの4ヶ所が世界ジオパークネットワークに加盟認定されています。これ以外にも加盟を目指して活動を始めている地域が多数あります。

ジオパーク構想とは

ジオパーク構想は、ユネスコ (UNESCO、国際連合教育科学文化機関) の支援により2004年に設立された世界ジオパークネットワークによって、世界各国で推進されています。その趣旨は、「地球科学的に貴重な遺産を保護しつつ、それらを教育や科学振興、地域の観光事業に役立て、地域経済の活性化のために活用することによって地域の持続可能な発展を図る」というものです。国際平和と人類の共通の福祉を目的とするユネスコは、世界各地のジオパーク同士のあらゆる形の協力、とくに教育、運営、観光事業、持続可能な開発、地域計画といった分野での協力を奨励しています。

世界ジオパークネットワークに加盟の認定を受けるためのガイドラインについては、以下のように定められています。

- ①それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。
- ②地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的こうこがくてきもしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。
- ③博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行う。

- ④ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する。
- ⑤世界的ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、会議に参加し、ネットワークを積極的に活性化させる。
- ⑥公的機関・地域社会ならびに民間団体によるしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。

世界遺産とジオパークの違い

主に自然や文化の保護を目的とする世界遺産に対して、ジオパークは地球活動に関わる自然遺産を保護しつつ、それを教育や科学の普及、観光・地域振興などに活用するなど、保護と活用の両方が重視されます。

つまり、ジオパークについては、単に地質遺産の保護のみならず、それらの遺産を積極的に活用することによって地域の持続可能な発展を図ることが求められています。

◆ジオパーク用語解説◆

◎ユネスコ (UNESCO) とは?

英語の正式名称は、*United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization* で、頭文字を取った UNESCO も公式に使われています。

1945年11月16日に採択された「国際連合教育科学文化機関憲章」(ユネスコ憲章)に基づいて1946年11月4日に設立された国際連合の専門機関で、教育、科学、文化の発展と推進を目的として活動しています。

◎世界ジオパークネットワーク (Global Geoparks Network) とは?

世界的に貴重な地形や地質がある自然公園を世界ジオパークとして認定する団体で、フランスのパリに本部があります。2004年にユネスコの支援により設立されました。

◎日本ジオパークネットワーク (Japan Geoparks Network) とは?

日本国内におけるジオパークに関する情報発信及び周知を図ることを目的として設立された団体です。世界ジオパークネットワーク(GGN)の一員としてジオパークの発展のために国際協力も行っています。2009年に前身の日本ジオパーク連絡協議会を発展的に解散して設立されました。

1. 湯沢市ジオパーク構想策定の背景と目的

(1) ジオパーク構想策定の背景

湯沢市は、平成17年3月22日、旧湯沢市と雄勝郡稲川町、雄勝町及び皆瀬村が合併し、誕生した、総面積790.72k m²、人口50,863人（平成22年国勢調査人口速報）の田園都市です。秋田県の南東部に位置し、宮城県と山形県の両県に接しており、古来より秋田県の南の玄関口として発展してきました。

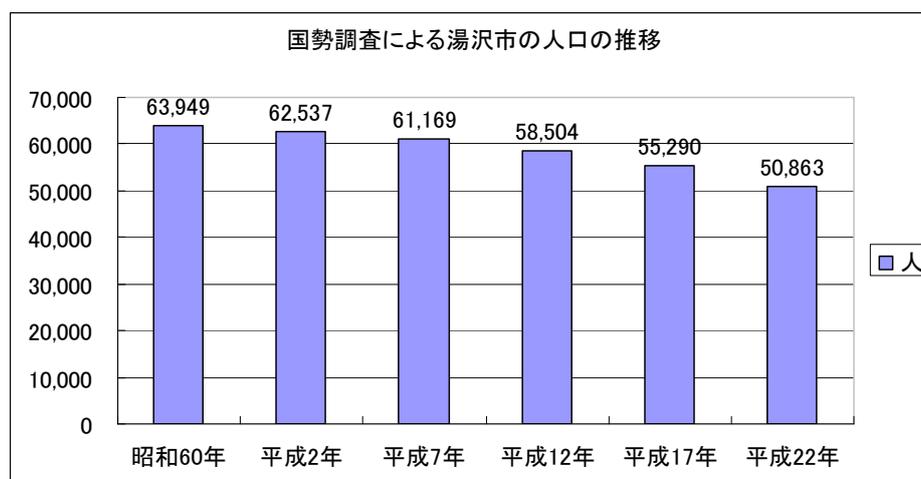
南北に貫流する雄物川と、その支流である皆瀬川、役内川沿いに豊かな水田地帯を形成し、県境付近の西栗駒一帯は、栗駒国定公園に属し、雄大な自然林を有しているほか、豊富な温泉群にも恵まれています。

平安期の謎に包まれた才女「小野小町」は、湯沢市小野が生誕地といわれ、今も多くの遺跡や伝承が守り継がれています。

江戸初期には院内銀山が発見され、藩直営の銀山として繁栄し、最盛期には銀山の人口が15,000人に上ったといわれています。

合併後の将来像を「人と自然が輝き、ふるさとの技がさえる美しさあふれるまち」とし、湯沢市が持つ自然・伝統・文化・工芸品などの魅力的な素材をさらに磨き、活かしていくとともに、市民と行政が一体となり、自主性や自立性を高めながら、将来像の実現に向けて取り組んできました。

しかし、人口は減少を続け、国勢調査の数字で比較すると、平成17年から平成22年の5年間で、湯沢市の人口は4,427人（約8%）減少しています。



1. 湯沢市ジオパーク構想策定の背景と目的

湯沢市の人口減少の主な要因として、少子化による自然減が挙げられますが、現在の厳しい雇用情勢を背景とした学卒者等の若年層の人口流出も要因の一つとなっています。

また、近年の世界同時不況の影響により、地域の雇用を大きく支えていた工場の撤退があり、圏域の雇用に大きな影響を与えました。その後、湯沢市に立地した企業もありますが、雇用情勢を大きく改善するまでには至っていません。

新たな企業立地は厳しい状況と言えますが、人口の定着のためには雇用の場の創出や確保が重要であり、市内の既存産業の振興や新たな産業の創出が課題となっています。

湯沢市では、減少する定住人口を交流人口の拡大により補完するため、合併後、観光の振興に力を入れてきました。観光は、多様な産業と関連することから地域振興をけん引する産業と言われ、全国各地で様々な取り組みが行われています。観光は、地域経済の活性化に寄与するばかりでなく、活力ある魅力的なまちづくりや伝統・文化の保存育成を通じた地域の誇りの醸成にもつながると期待されています。

湯沢市には豊かな自然や歴史文化、多彩な祭り、豊富な温泉資源、地力ある特産品など活用すべき魅力的な資源があふれていますが、あまりにも身近な存在であるため、地域住民がその価値に気づいていないため、十分に活用できていないのが実態です。

現在、湯沢市が抱えているこれらの諸問題を解決するために必要な取り組みは、ジオパークの認定を受けるために必要な取り組みであり、かつジオパークに認定されることにより解決できる問題でもあります。

課題を克服し、将来にわたって持続可能な湯沢市であるために、湯沢市ジオパーク推進協議会を中心に、湯沢市一丸となって、ジオパーク構想に取り組むことになりました。

(2) ジオパーク構想策定の目的

ジオパーク認定に向けた第一歩は、私たちが生活する地域の資源を見つめ直し、その資源の持つすばらしさに住民が気づき、「ここに住んでいて良かった」と思うことから始まります。

地域に住む人が自分の住む地域の良さを知り、そのことで生まれる郷土愛を育み、地域に対して誇りを持つことも目的のひとつです。

そして、地域が持つすばらしい資源を後世に残すために保護しながら、一方では教育や研究にも活用し、新たな観光といえる「ジオツーリズム」や「グリーンツーリズム」、「体験学習型観光」などを通じて、地域の産業や経済活動の

活性化に活用し、湯沢市全体を活性化させることが最終的な目的になります。

その目的に向かって、地域住民、行政、民間団体、関係機関等、湯沢市が一丸となって進むための道標とするため、「ジオパーク構想」を策定します。

(3) 期待される効果

①まちづくり・人づくり

あまりにも身近な存在で、当たり前すぎて見過ごしていた地域の資源を改めて見つめなおし、その価値を知ること、住んでいる人々の全てが、その資源、ひいては地域全てに対して自信を持ち、地域外の人に対して自分の住んでいる地域を自慢できるようになります。地域のことを誇りに思い、自慢できるということは、自分が住む地域に愛情を持っていなければできません。この郷土愛を持っている人が多ければ多いほど、地域に活力がわき、それが元気なまちづくりと人づくりにつながっていきます。

②情報の発信・交流の拡大

世界あるいは日本ジオパークの認定を受けることで、湯沢市の知名度は格段に上がり、日本のみならず世界にも広くアピールできるようになります。

これに伴い、湯沢市を訪れる人の数が増えるとともに、一般的な観光客以外にも、地質や歴史など様々な分野を研究している人などが目的を持って訪れてくるようになります。今後は、新しい観光の形である「ジオツーリズム」を通じた滞在など、交流人口の拡大が期待されます。

③関連産業の活性化

「ジオツーリズム」など各種ツーリズムを通じての宿泊、滞在による観光産業はもちろんのこと、新たなツアー商品の開発や既存の観光商品の充実が図られるとともに、ジオに関連した新たな商品の開発や食への連携、ガイドの職業化など、湯沢市内の多様な産業が活性化することが期待されます。

(4) 構想実現の目標

本協議会は、世界ジオパーク認定登録への第一歩として、平成24年度の日本ジオパーク認定登録を目指して、各種事業を展開していきます。

日本ジオパーク認定後は、さらに地域資源の磨き上げや発掘、ガイド養成等を実施し、ジオパーク全体のレベルアップを行い、世界ジオパーク認定登録を目指して、活動を展開していきます。

2. ジオパークのテーマと特徴

(1) ジオパークの名称

湯沢市の地球活動の遺産である「ジオサイト」は、湯沢市の全域に広く点在しています。そのため、この構想で対象とするエリアを湯沢市全域とします。

また、本地域のジオパークの名称を次のとおりとします。

「美の郷ゆざわジオパーク」

(2) テーマ

湯沢市は、南北に貫流する雄物川と、その支流である皆瀬川、役内川沿いに豊かな水田地帯を形成し、県境付近の西栗駒一帯は、栗駒国立公園に属し、雄大で美しい自然を有しています。

湯沢市は豊富な温泉資源にも恵まれ、地下深くには高温の地熱貯留層ちねつちりゅうそうの存在が確認されており、その資源を利用した地熱発電や乳製品・農産加工品等の製造に利用されています。

平安期の謎に包まれた才女であり、世界三大美女の一人といわれる「小野小町」は、湯沢市小野が生誕地といわれ、今も多くの遺跡や伝承が守り継がれています。

江戸初期には院内銀山や松岡鉦山しらさわ、白沢鉦山などが発見され、豊かな鉦物資源を産出しました。中でも、院内鉦山は藩直営の銀山として繁栄し、最盛期の銀山の人口は、15,000人ともいわれており、その銀山の繁栄は、湯沢市の酒造りや商業など産業の発展の礎いしずえとなりました。

湯沢市は、ジオの恵みを産業に活用しながら、美しい自然や歴史、人物伝承などを現在まで引き継いできました。

今後も、後世に、このすばらしい資源を引き継いでいくために、湯沢市のジオパークのテーマを次のとおりとします。

「大地が創り育てた 美の郷ゆざわ」

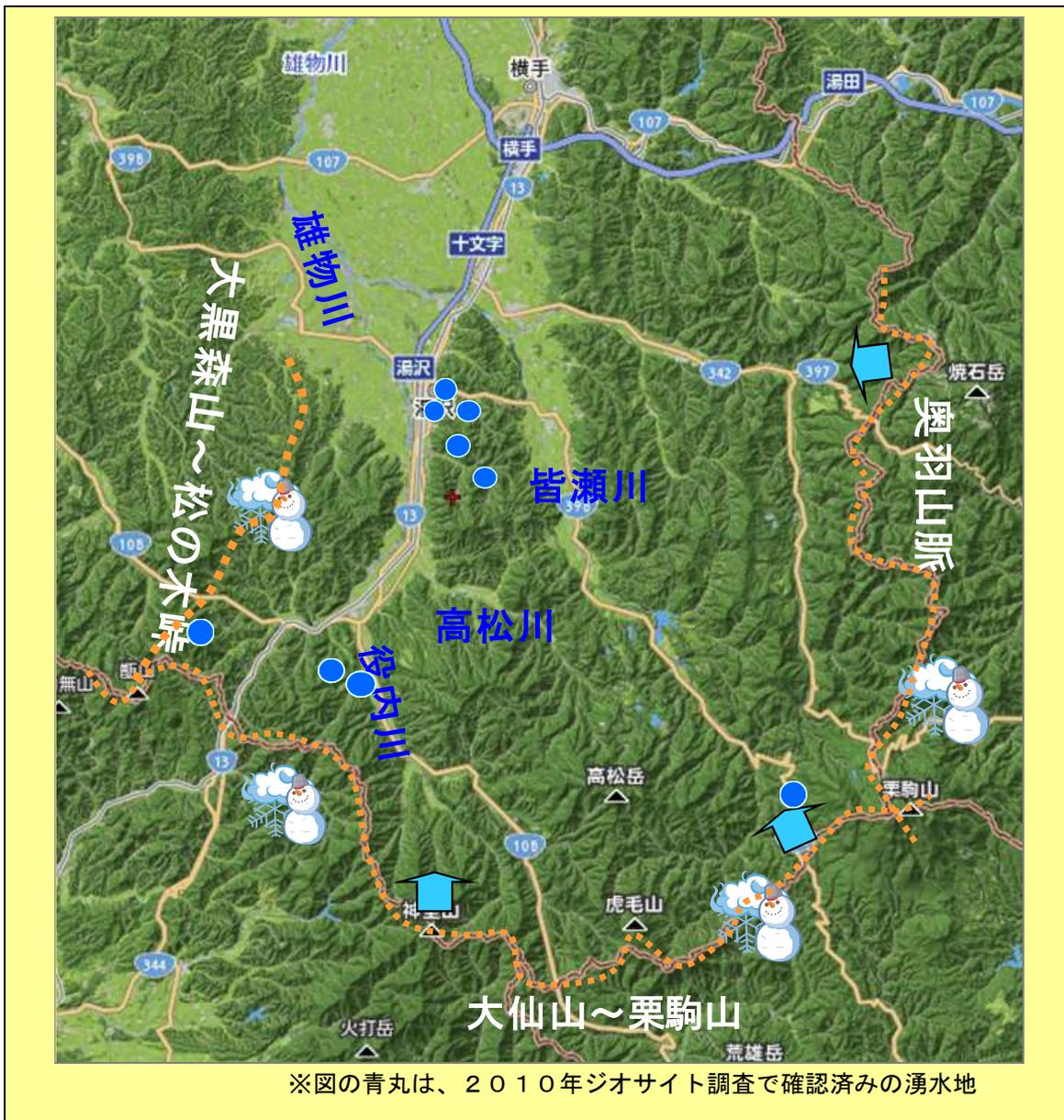
(3) 特徴

人々の生活は、大地の恵みを受けて、脈々と続いてきました。その恵みを受け、植物や動物が豊かな生態系を築き、それを地域に住む人間が利用し、産業を起こし、経済活動を行い、様々な文化を築いてきました。

私たちが生活する湯沢市も同様の過程を経て、発展してきました。

私たち人間や動物、植物が生きていくうえで欠かせないもののひとつに「水」があります。湯沢市を流れる川は、雄物川、役内川、皆瀬川、高松川など水量も豊富です。

①湯沢の豊かな湧水^{ゆうすい}



また、湯沢市内にはおいしい湧水が多く点在し、名称のある湧水地だけでも20か所以上あります。

湯沢市の豊かな水量と湧水には、次のような理由があります。

湯沢市においしい湧水が多い理由（地形、地質、気象的なもの）

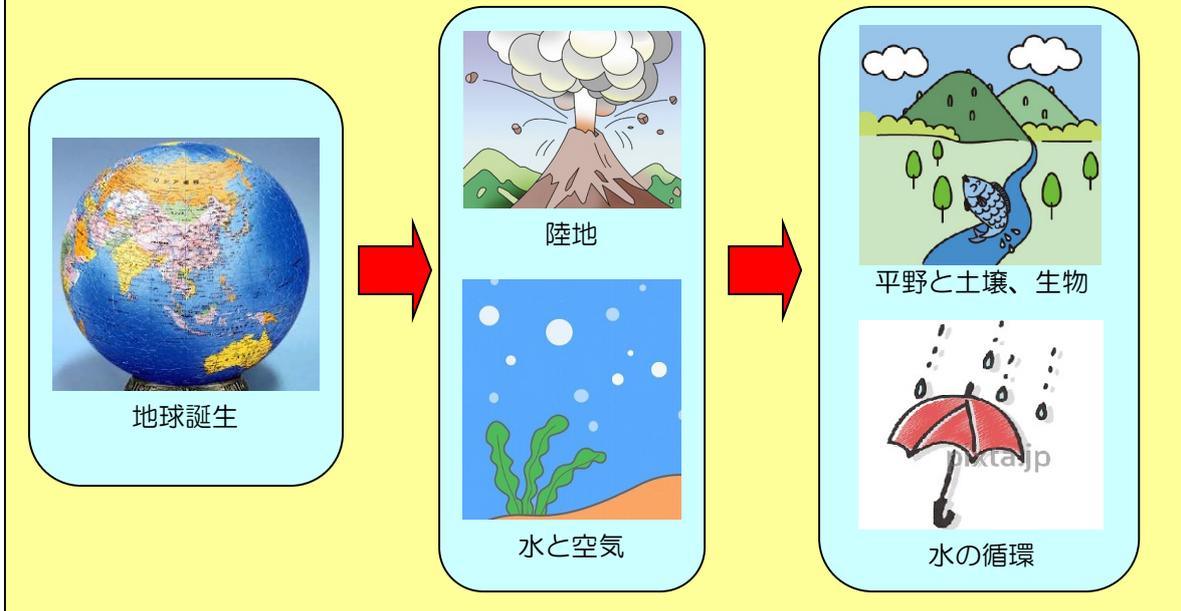
- (ア) 標高800m以上の分水嶺が東の奥羽山脈、南の栗駒山～大仙山、および西の大黒森山～松の木峠の3方向にあり、分水嶺に囲まれた地形的特長を呈しています。
- (イ) 山岳地域は積雪が3mを越す豪雪地帯で、その豪雪がもたらす雪解け水が、湧水の豊かな供給源となっています。
- (ウ) 山岳部の豊かな森林が、高い貯水能力を持っています。
- (エ) 湯沢市の大地のほとんどが火山岩類で覆われていますが、火山岩は割れ目が発達しており、高い貯水能力を持っています。
- (オ) 火山岩などの割れ目を水が浸透する時に、ミネラル分が供給されておいしい水となり、その水が断層、地層の割れ目、地層間の境界などから、常に一定の水温（7～12℃）で湧き出てきます。

② ^{ジオ}大地が生んだ湯沢の美酒

このおいしい湧水が生み出した湯沢市の特産品の一つが「日本酒」です。

湯沢市が「東北の灘」と称されるほどの酒どころになったのは、美味しい湧水以外にも次のような理由があります。

46億年前に地球が誕生し、「陸地」と「水」と「空気」が生まれ、それがさらに「平野と土壌、生物」を育て、「水の循環」を作り出しました。



地球が誕生してから現在までの地球活動が、湯沢市に絶妙なバランスで結実し、「おいしいお米」と「おいしい湧水」、^{こうじ}「麹菌」を生み出しました。



おいしいお米



おいしい湧水



麹菌

湯沢市の豊かな大地が生んだ「おいしいお米」と「おいしい湧水」、「麹菌」、麹菌の住み家となっている院内凝灰岩で造られた「酒蔵」、そして酒造りの職人である「杜氏」^{とうじ}の手が加わり、湯沢市の「美酒」が誕生しました。

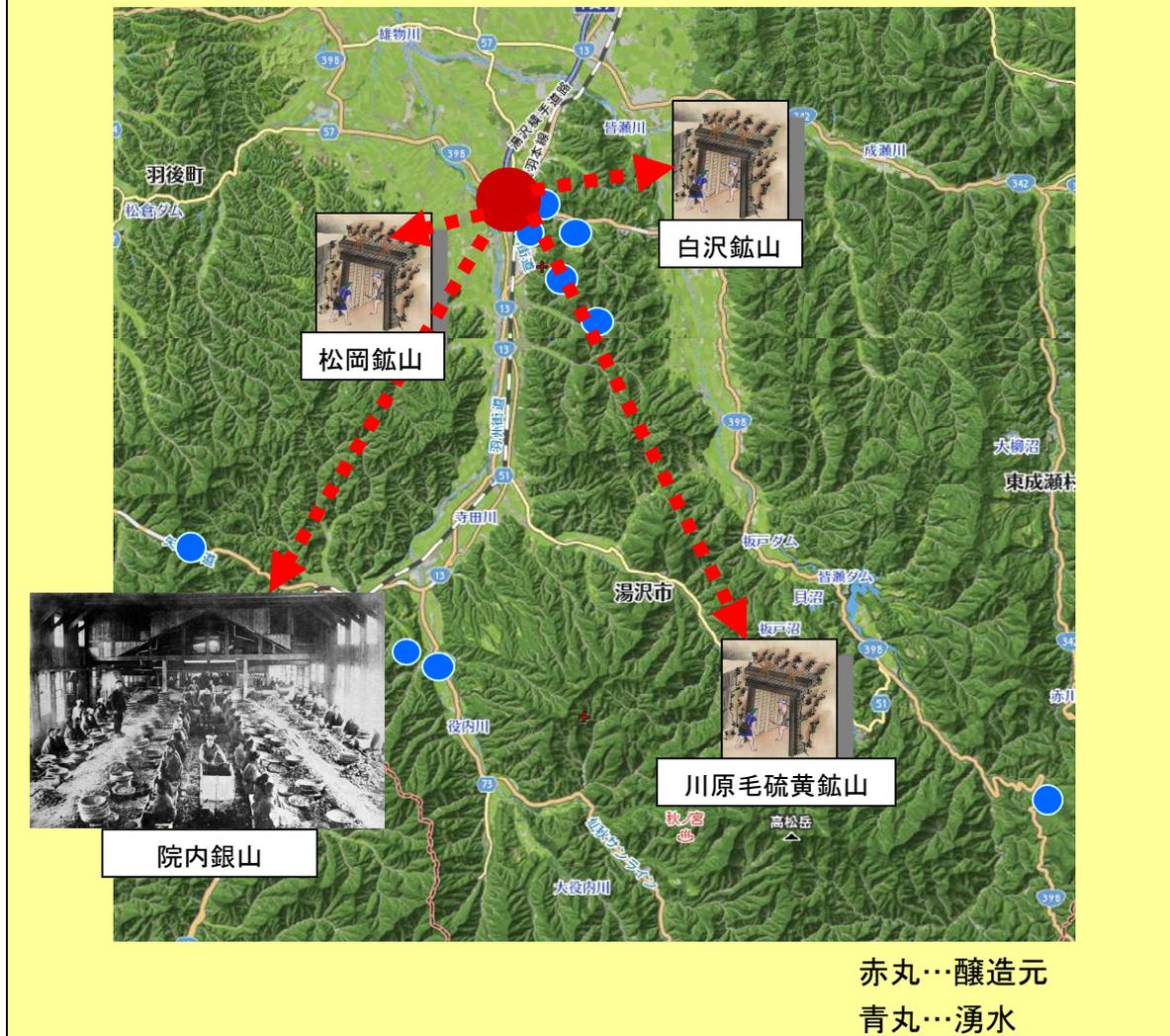


2. ジオパークのテーマと特徴

湯沢市に「おいしいお米」と「おいしい湧水」、「麹菌」があったため、おいしい日本酒ができましたが、それ以外にも湯沢市が「東北の灘」と称される酒どころとなった地理的な理由があります。

醸造元と日本酒の大消費地「院内銀山」「松岡鉱山」「白沢鉱山」など

湯沢の醸造元の近くには、日本酒の大消費地である「院内銀山」などの鉱山があったため、日本酒の生産量も増加し、「東北の灘」と呼ばれるまでになりました。



③ 三関の扇状地と水が育む美味・さくらんぼとセリ

湯沢市の三関地区では、日本一という評価を受ける「さくらんぼ」や根っこまで食べられる「三関セリ」が栽培されています。それはどうしてでしょうか？

こんな物語を語りながら、販売してはどうでしょうか？

三関扇状地の特徴

- ・ 緩やかな斜面
- ・ 花崗岩や火山岩起源の土
- ・ 豊かなミネラル水
- ・ 西日の恵み

三関セリ

さくらんぼ

三関地区以外の湯沢市の特産品すべてが大地の恵みを受けて成り立っています。

④秋田美人の郷・湯沢

秋田の代名詞のひとつと言えば「秋田美人」ですが、湯沢市は世界三大美女の一人といわれる平安期の歌人「小野小町」の生誕地といわれ、今も多くの遺跡や伝承が守り継がれています。秋田に「美人」が多い理由として、氷河期の動物の移動、気候、食品、そしてミネラル豊かな水に起因しているなど、諸説があります。



◎秋田美人について

- ◆湯沢・横手・大曲・角館などの雄物川流域は、昔から美人の郷と言われてきた。
- ◆秋田美人の特徴は、「色白、きめ細かい肌、長身、やや面長、細く切れ長の目、小さい口、通った鼻筋」
- ◆湯沢市の医師・杉本博士の研究によると、皮膚色調の白色度が、日本人平均が約 22%であるのに対し、県南地方は約 30%であり、西欧白色人種に近い結果が出ている。

◎湯沢市に美人が多い理由

- ◆冬の間、雪が多いため湿度が高く、肌の艶つややかさを保ちやすい。
- ◆日照時間が短く、紫外線量が少ない。
秋田＝1,752 時間、東京＝2,067 時間
- ◆麴を使用した酒や味噌、漬物は複合タンパク質が多く、肌を滑らかにする。
- ◆山菜やネバネバした食品を好んで食べる。
- ◆ミネラルに富む湧水が豊かで、温泉が豊富。
- ◆ヨーロッパ系の白人など大陸から渡ってきた多様な人種と混血した。



⑤大地の恵み「鉱山」



湯沢市には日本有数の院内銀山（1598年発見～1954年休山）、松岡鉱山（1596年発見～1947年休山）、白沢鉱山（1709年発見～1950年休山）など江戸時代から採掘されていた鉱山がいくつもあります。

これらの鉱山は中新世後期の酸性火成岩の活動に伴う鉱脈型鉱床で、金・銀・銅・鉛・亜鉛などを産出しました。江戸時代以来、これらの鉱山は秋田県や湯沢市にとって重要な産業でした。

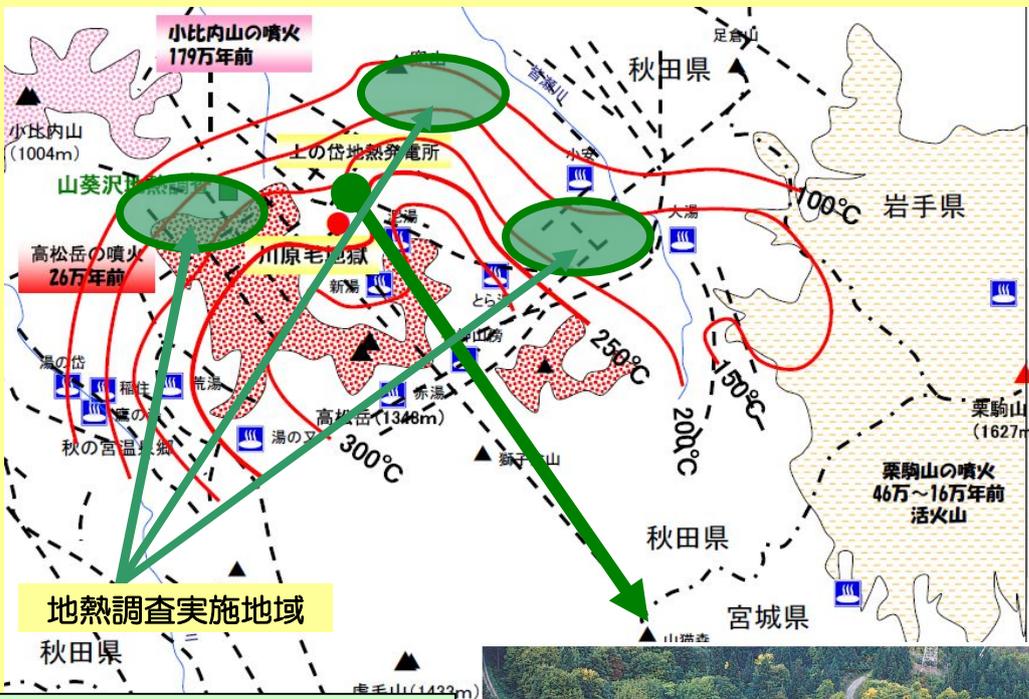
金属地下資源は、地球から人類に贈られた貴重な財産であったといえます。現在、湯沢市内のこれらの鉱山は、わずかにその歴史を語る史跡（坑道跡）を残すのみです。

⑥大地の恵み「地熱」の有効活用

湯沢市は地熱の賦存量が日本有数であり、高松地区にある東北電力株式会社上の岱地熱発電所は、平成6年の営業運転開始以来、地域にクリーンな電力を供給しています。湯沢市皆瀬の小安峡大噴湯は、大地（ジオ）の息吹を体感できるスポットとして、湯沢市の一大観光地となっています。

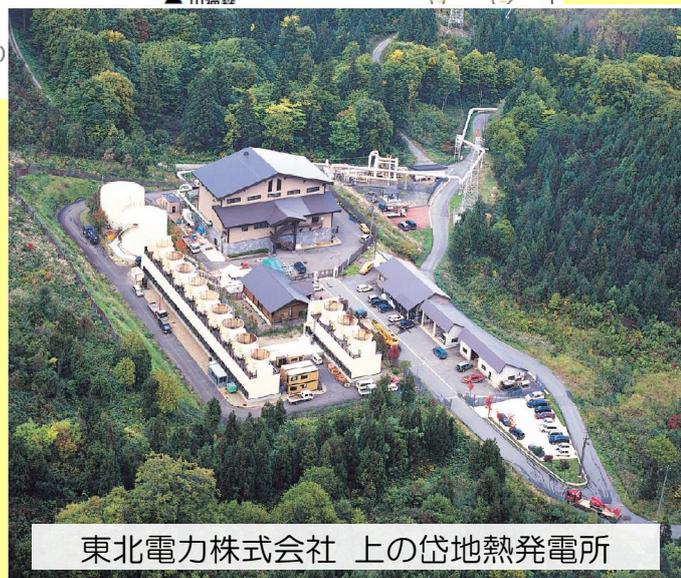
湯沢市は、大地の恵みである「地熱」を有効に活用し、しっかりと産業に結び付けています。

◎湯沢市の地熱温度分布と地熱開発



湯沢市では多くの地熱開発促進調査が実施されています。

地熱発電は、二酸化炭素の排出量が少なく、また純国産エネルギーであるという点からも、とても優れたエネルギーです。エネルギー自給力の乏しい我が国においては貴重なエネルギーであり、現在、注目されている再生可能な自然エネルギーの一つです。



東北電力株式会社 上の岱地熱発電所

◎温泉熱の産業利用



温泉熱利用の乾燥装置

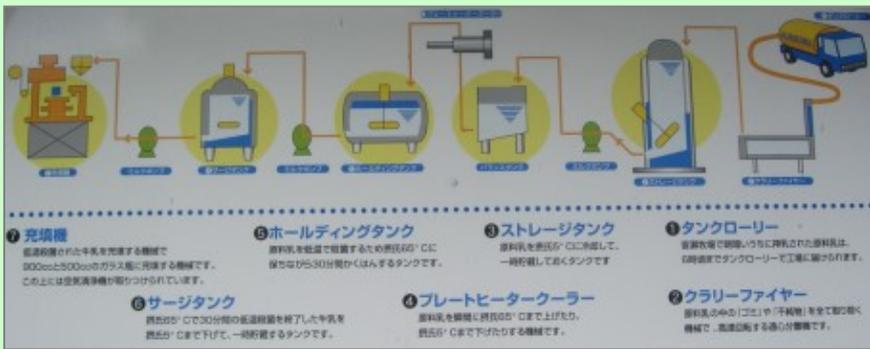


乾燥された商品

温泉熱を利用した農産加工所



温泉熱を利用して乳製品を製造する栗駒フーズ



温泉熱利用のみつばの栽培

⑦大地が創りだした自然美

湯沢市の県境付近の西栗駒一帯は、栗駒国定公園に属し、雄大な自然林を有するほか川原毛^{かわらげじごく}地獄や小安峡大噴湯などの自然が創りだした景勝地も多く存在するなど、本市は自然豊かなまちです。この豊かな自然も大地が創りだした美しい作品の一つです。



←川原毛地獄

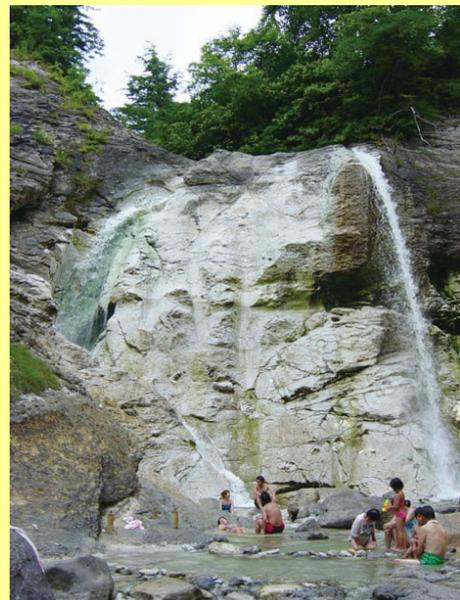


↑小安峡大噴湯



↑ 自分で足湯を作れる
川原の湯っこ

20mの高さから温泉が流れ →
落ちる川原毛大湯滝





↑ 湯の又沢

←紅葉の湯の又大滝

火山の山 かぶとやま
兜山 →



↓おしら様のしだれ桜



↓秋田県指定天然記念物の苔沼



⑧大地の恵みを学習へ利用

湯沢市にある大地からの恵みである鉱物や化石などを小中学生の体験学習の教材として活用することにより、子供たちのジオパークへの興味を育てることができます。

そして、その興味が、当たり前すぎて見過ごしていた地域の資源を再発見するきっかけとなり、自分たちの郷土「湯沢市」に対する郷土愛の醸成につながっていきます。

◎子供たちの体験学習



←2010年7月に実施した植物化石の野外体験学習の様子
(秋田さきがけ新聞記事)



2011年6月に実施した鉱石採集野外体験学習の様子

←

↓



このように、湯沢市に住む人々は、これまで大地の恵みをしっかりと活用し、現在も湯沢市の特産品を生み出すなど産業活動・経済活動を行い、文化を育み、脈々と生活を続けてきました。

湯沢市ジオパークの特徴は、「**大地の恵みを産業利用し、経済・文化を築いてきた姿を間近に見ることができる**」ことにあります。

◆「ジオパーク」用語解説◆

◎ジオサイトとは？

地質、地形、歴史など、そのジオパークを特色付ける見学場所や拠点となる博物館などの施設のことです。

たとえば、地形の景観、岩石や化石が見られる崖、歴史的建造物、植物の群生地などがジオサイトになります。

◎ジオツーリズムとは？

ジオサイトを巡り、自然と人間との関わりを学ぶ新しい観光の形が「ジオツーリズム」です。

ジオツーリズムは単に現象を見学するだけでなく、特徴的な地形を造った、あるいは造りつつある過程を正しく理解することに主眼が置かれています。

ジオツーリズムは、貴重なあるいは重要な地質・地形学的景観を保全している地域で、その景観や環境を損なうことのない持続可能な観光であり、子どもの教育や大人の生涯学習に適した観光の形です。さらにその観光を通じて地域経済の発展につなげていくことも目的としています。



3. ジオサイト候補地

(1) ジオサイト候補地について

湯沢市には、全部で16のジオサイト候補地があります。この数は、今後の調査・研究によって新たな発見や歴史的な見解が得られることにより、さらに増える可能性があります。

これらのジオサイト候補地の選定は、単に地質学的に重要な場所があるかだけでなく、地形、生物、古代から現代にいたる人間の歴史や産業などの点で重要な場所を含むかを考慮しながらおこなわれています。

このように湯沢市には数多くのジオサイトの候補地がありますが、互いに類似点が少ないことが大きな特徴です。このため複数のジオサイトをめぐるとジオツーリズムが設定でき、滞在時間の拡大につながります。現在注目を集めている地熱発電所から温泉街、そして院内銀山の歴史探訪など、幅広いジャンルに富んだものといえます。何度訪れても、季節によって景色が変わり、前と同じということはありません。

四季折々楽しむことができるジオサイト候補地です。

※ジオサイト候補地及びジオポイントは平成22年度学術調査報告書を基に選定しています。

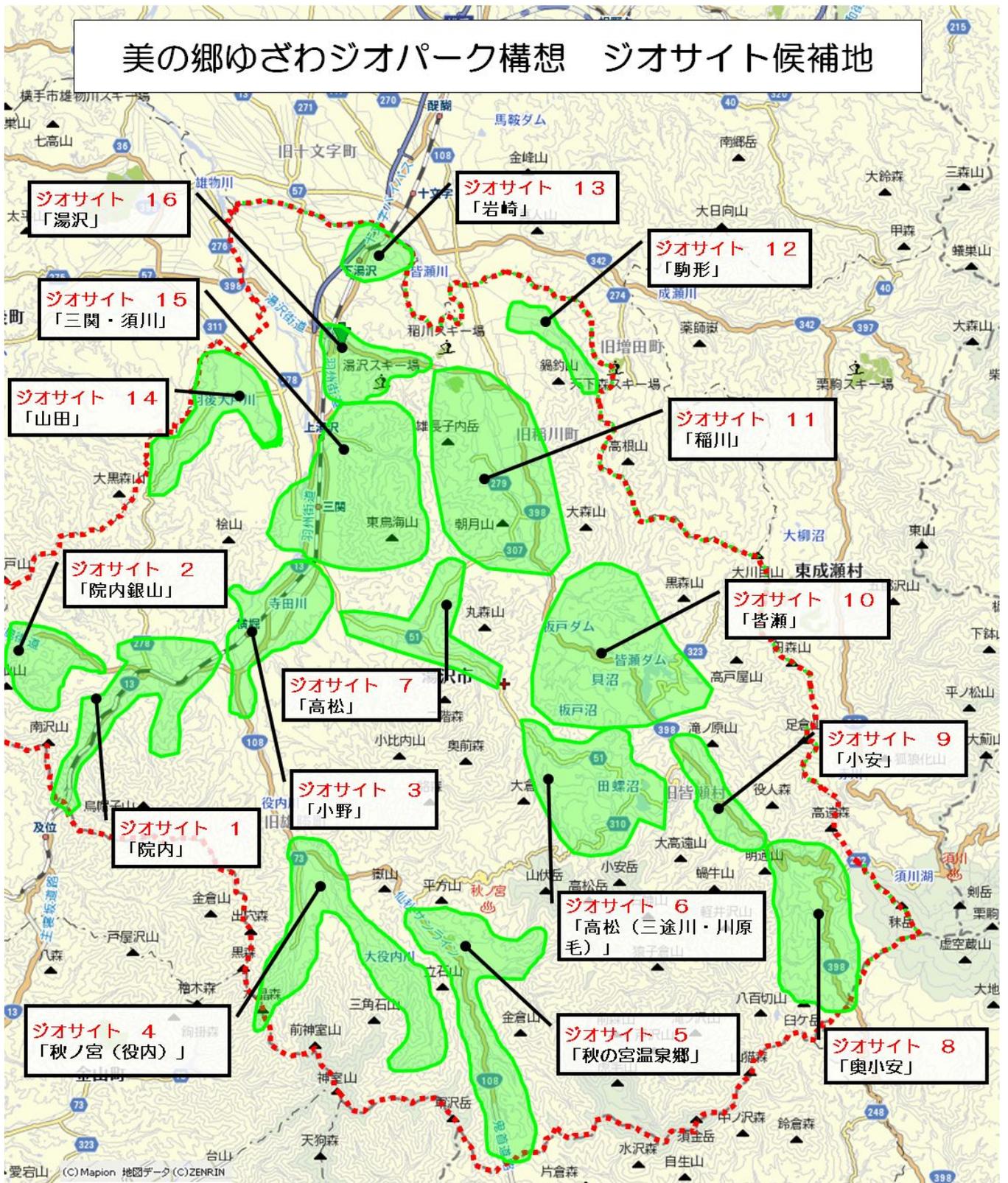
◆日本国内のジオパーク◆

日本のジオパークは、2010年6月現在、14地域が日本ジオパーク委員会によって認定されています。

そのうち、4地域が世界ジオパークに認定されています。



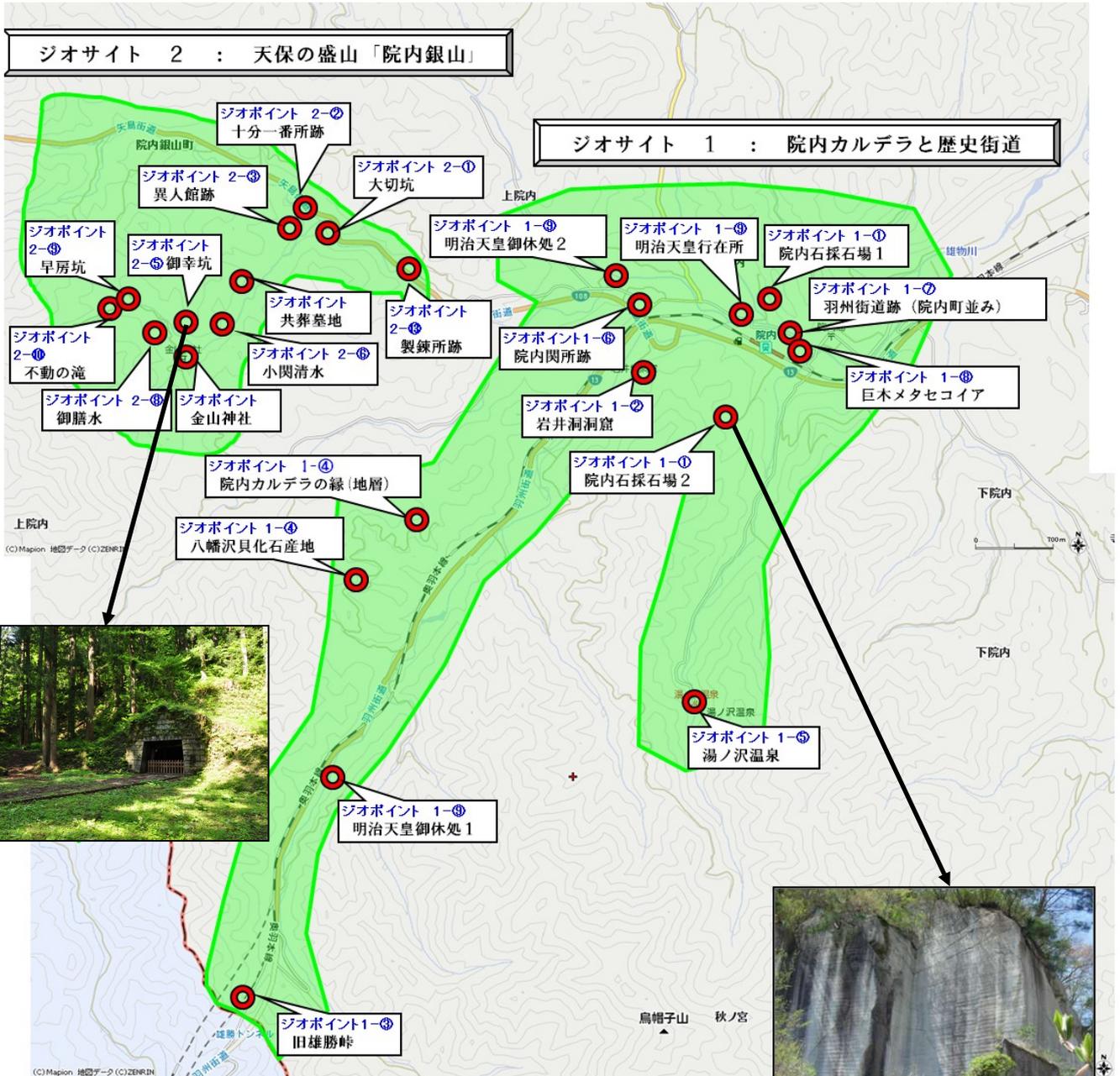
(2) ジオサイト候補地全体マップ



(3) ジオサイト候補地各サイトマップ

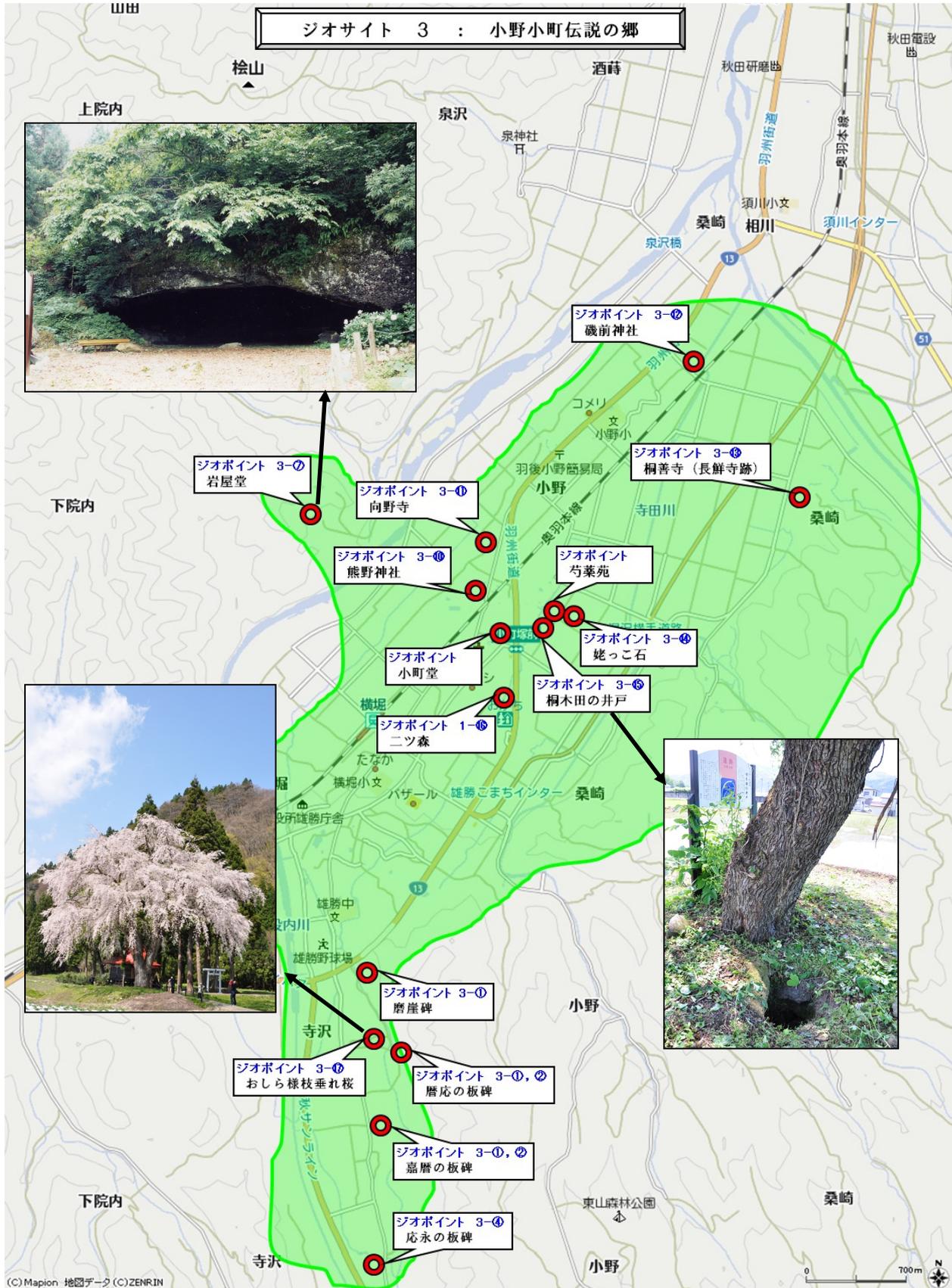
ジオサイト1「院内」 : カルデラと歴史街道

ジオサイト2「院内銀山」 : ^{てんぼう さかりやま}天保の盛山「院内銀山」



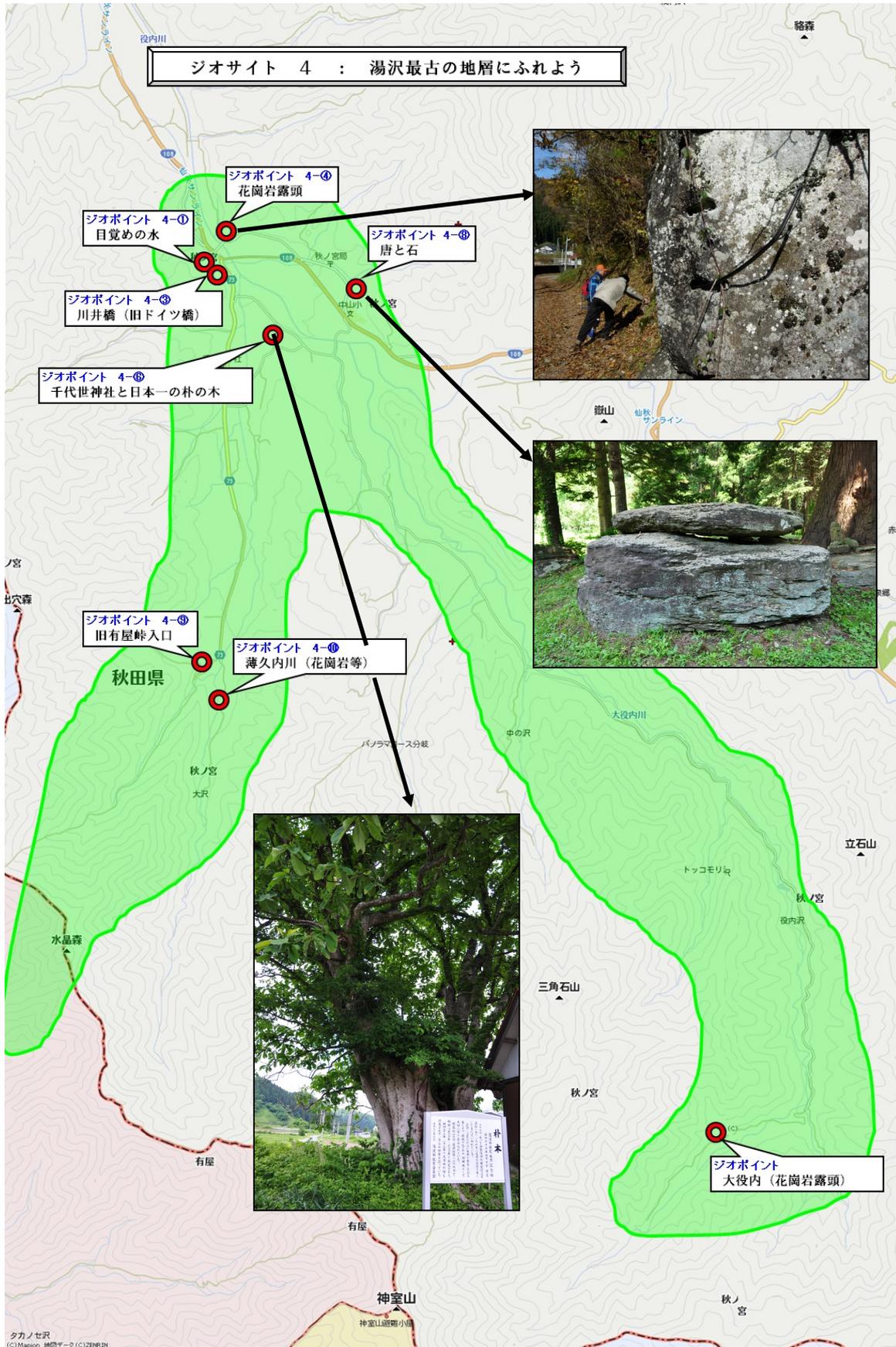
※各サイトマップ中のジオポイントの説明については、「ジオパーク構想 別冊 ジオサイト候補一覧」をご覧ください。

ジオサイト3「小野」：小野小町伝説の郷さと

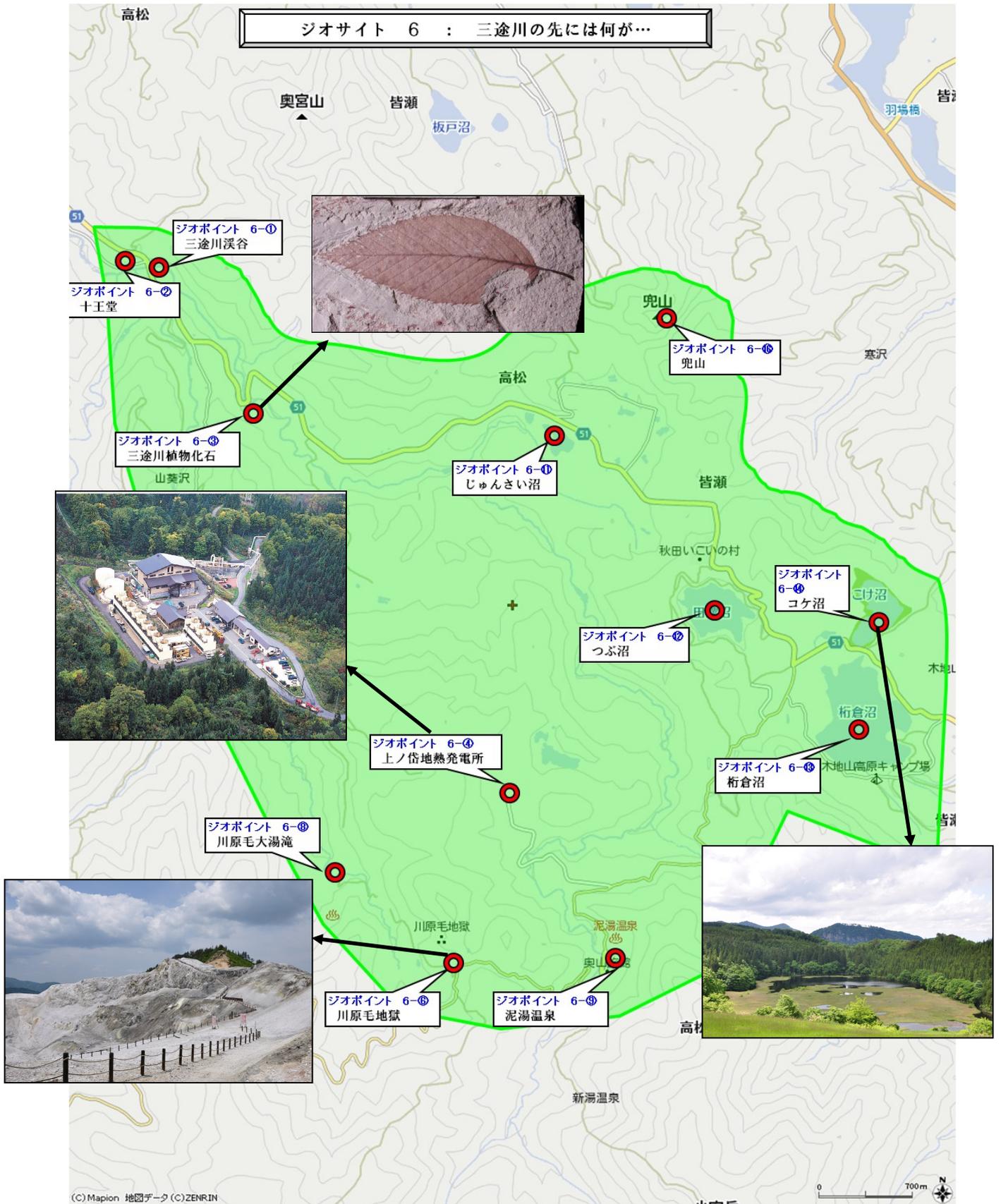


(C) Mapion 地図データ (C) ZENRIN

ジオサイト4「秋ノ宮（役内）」：湯沢最古の地層にふれよう



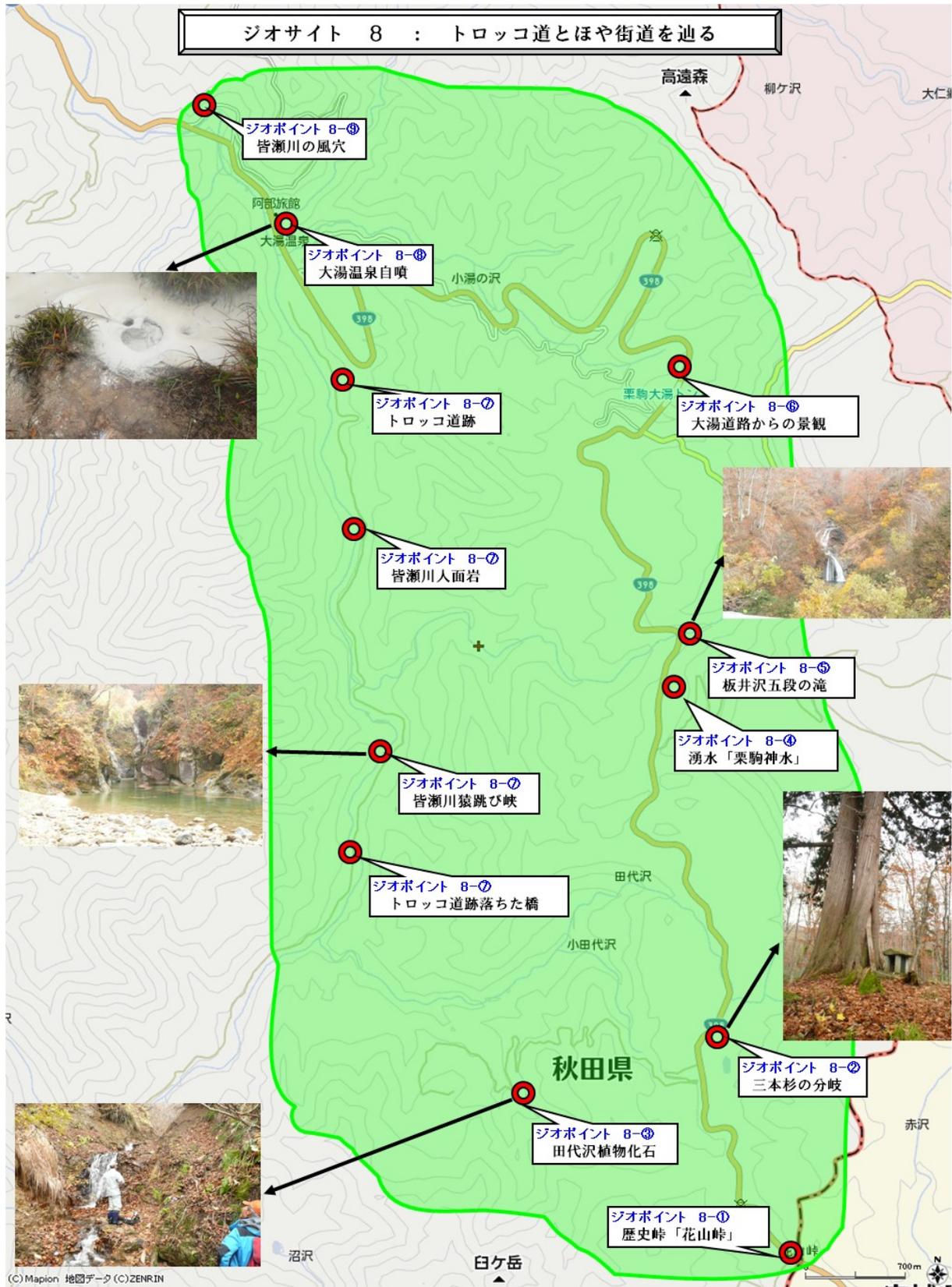
ジオサイト6「高松（三途側・川原毛）」：三途川の先には何が…



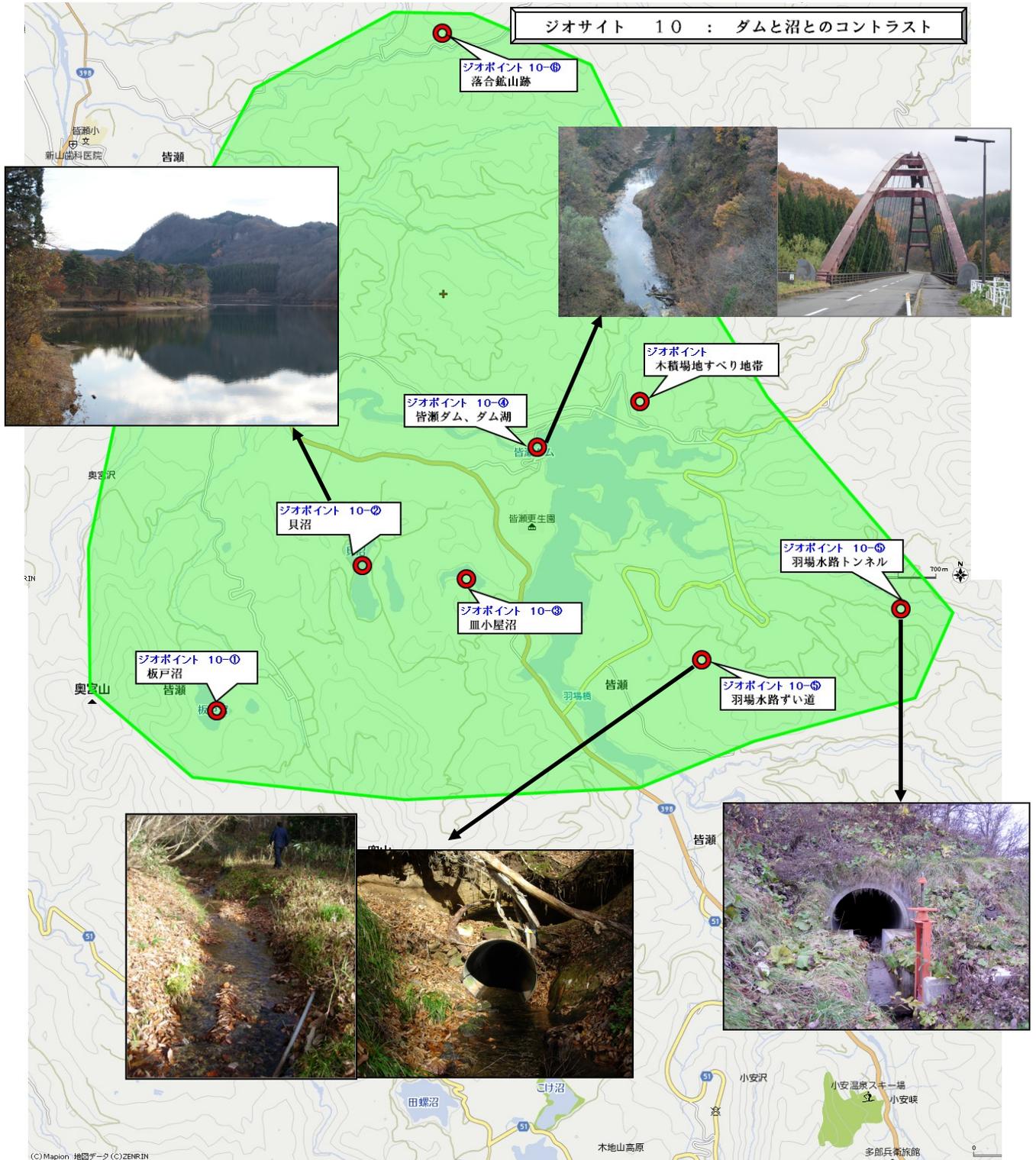
ジオサイト7「高松」：縄文遺跡とコスモス街道



ジオサイト8「^{おくおやす}奥小安」：トロッコ道とほや街道を^{たど}辿る



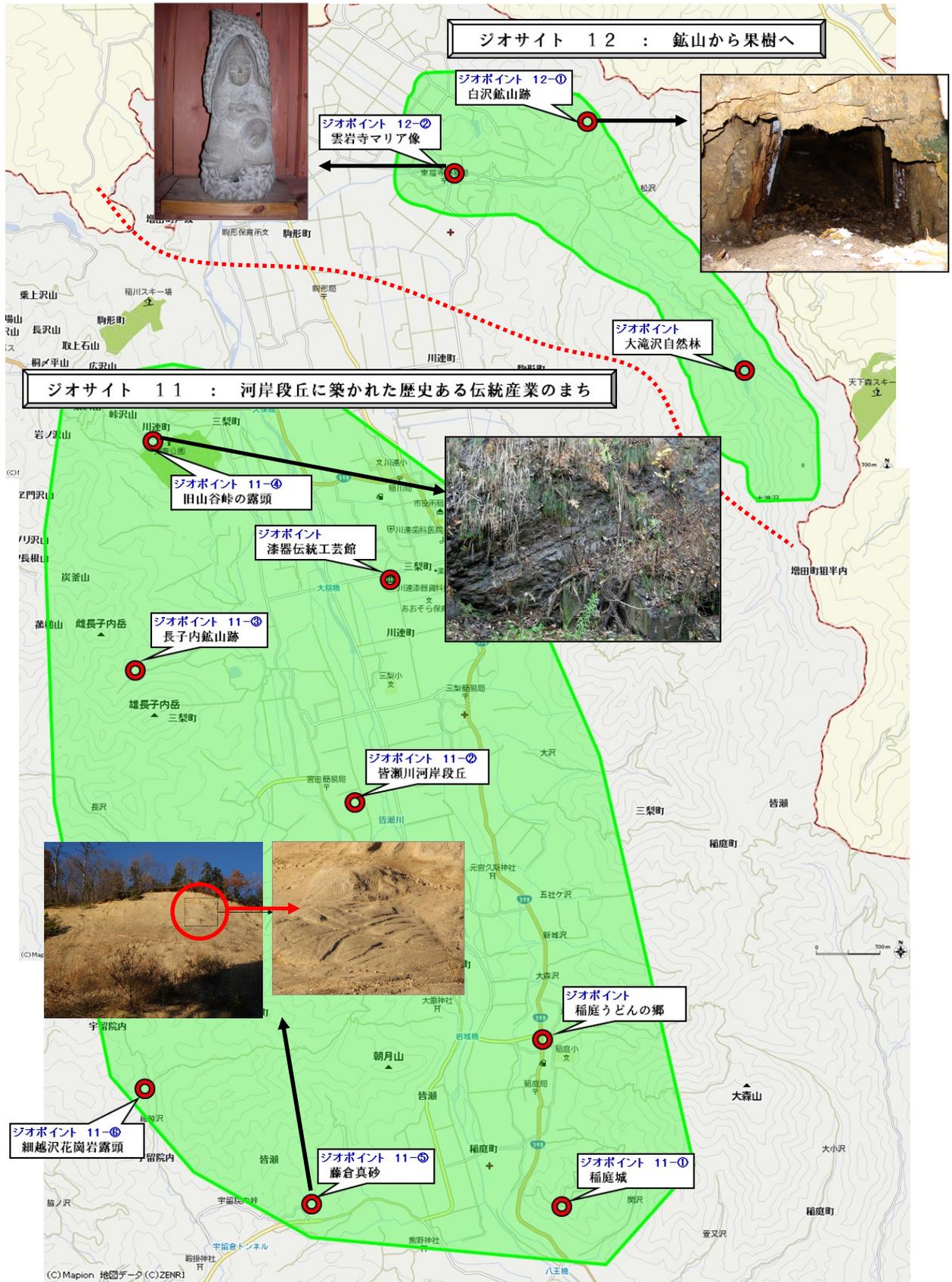
ジオサイト10「皆瀬」：ダムと沼とのコントラスト



3. ジオサイト候補地

ジオサイト11「稲川」：河岸段丘に築かれた歴史ある伝統産業のまち

ジオサイト12「駒形」：鉱山から果樹へ



ジオサイト13「^{いわさき}岩崎」：かつての独立藩

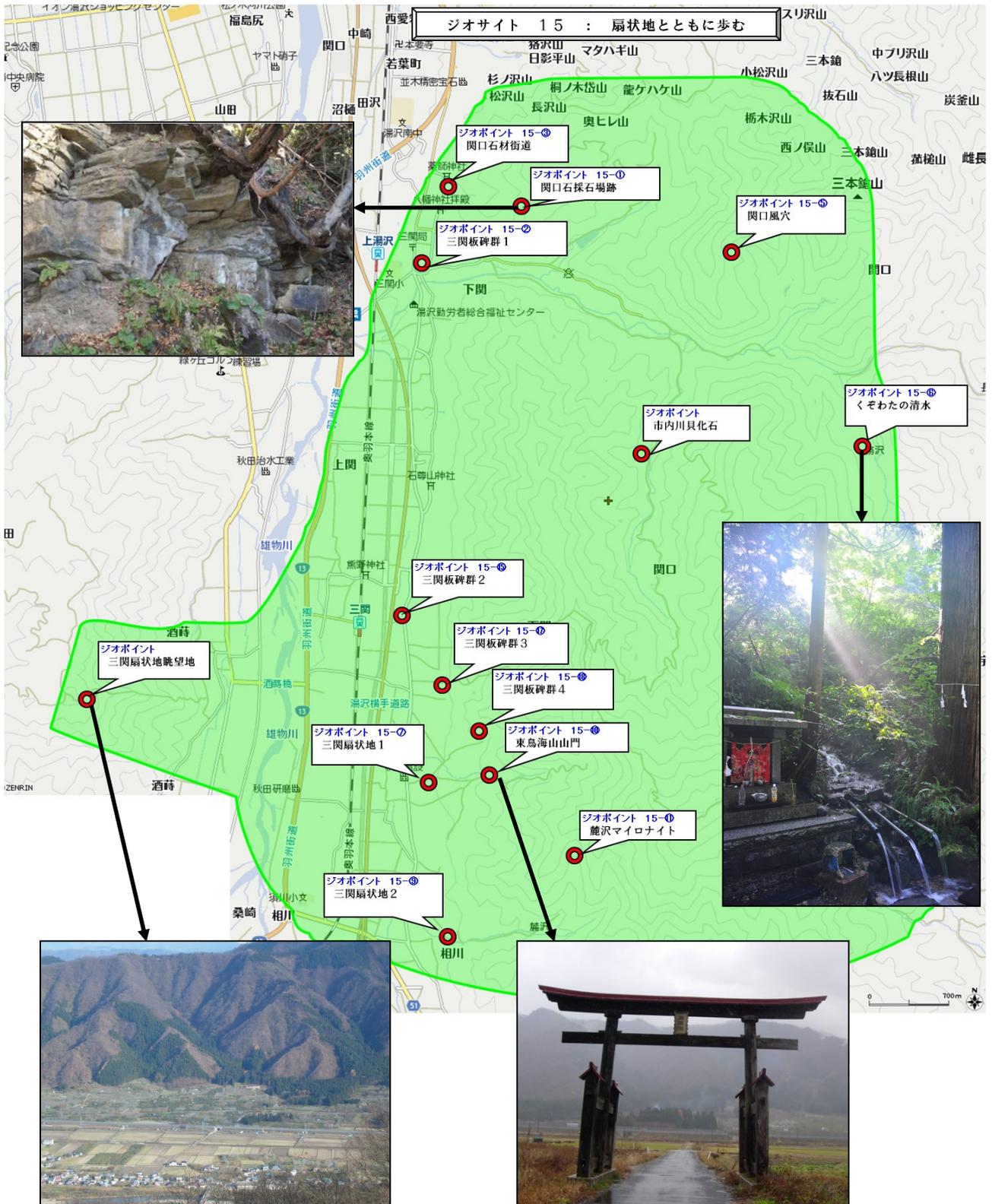


3. ジオサイト候補地

ジオサイト14「山田」：美酒を生む酒米のふるさと



ジオサイト15「三関・須川」：扇状地とともに歩む



ジオサイト16「湯沢」： 湧水多き^{さたけみなみけ}佐竹南家



4. ジオパーク認定に向けたアクションプラン

(1) 日本ジオパークネットワークへの加盟のために

①ジオサイト等の調査

- ・平成22年度から湯沢市のジオサイト候補地に関する学術調査を行っていますが、この調査を今後も継続し、学術的な肉付けや新たなジオサイト候補地の発掘を行います。
- ・現在、秋田まるごと地球博物館ネットワークの協力を得て、学術調査を行っていますが、さらに支援体制を強化するために、地元大学との協力体制を構築します。
- ・湯沢市全域のジオサイト候補地の情報を集めるため、推進協議会構成団体や市内各団体、市民等を対象に、聞き取り調査を行います。

②ジオパークの運営母体の整備

- ・ジオパーク認定に向けた活動を長期間継続するために、湯沢市ジオパーク推進協議会の構成団体がそれぞれ役割を分担し、各種事業を実施します。
- ・ジオパーク構想を推進するために、関係団体との協力を広げ、推進協議会の組織を強化します。
- ・活動を長期間継続するために、推進協議会の財政基盤を強化します。

③住民への普及

- ・住民のジオパークへの理解を深めるため、広報ゆざわへの特集記事の掲載やホームページの開設、マスコミへの情報提供等を行います。
- ・湯沢市のジオパークの魅力を知ってもらうため、市民対象のジオサイトツアーや講演会、パネル展示会などを地域ごとに開催します。
- ・(仮称) ジオパーク応援隊を組織し、隊員への情報提供を行うことで、隊員を通じた口コミ効果による普及を行います。
- ・親しみやすいロゴマークやキャラクターを作成するとともに、パンフレットやのぼりなどPRグッズを作成し、市内各所に設置します。

④保護と保全、研究・教育への活用、ジオツーリズムによる地域活性化

- ・各ジオサイトの状況を定期的に確認し、継続的な保護・保全に努めます。
- ・各ジオサイトの保護・保全の方向性やランク付けを行います。
- ・各ジオサイトの管理団体等との協力体制を構築し、継続的な保護・保全

体制を構築します。

- ・優先順位が高いジオサイトから、ルート案内板やわかりやすい解説板を設置していきます。
- ・小中学生向けの野外体験学習会や出前講座を開催し、子供たちの理解を深めます。
- ・市内のジオサイトを活用し、トレッキングや体験プログラムを組み合わせた滞在型の旅行商品を企画します。

⑤加盟申請

- ・上記の取り組みを行い、平成24年度の日本ジオパークネットワークへの加盟申請を行います。

【フロー図】

実施項目	実施年度	
	H23	H24
①ジオサイト等の調査		
②ジオパークの運営母体の整備		
③住民への普及		
④保護と保全、研究・教育への活用、ジオツーリズムによる地域活性化		
⑤加盟申請		

(2) 世界ジオパークネットワークへの加盟のために

①ジオサイトの磨き上げ、物語への肉付け

- ・優先順位やランク付けに基づいたジオサイトの整備を行います。
- ・統一したデザインで多言語に対応した、わかりやすい案内看板や解説板を設置します。
- ・多くの人を訪れると思われるジオサイトのインフラ整備を行います。
- ・ジオサイトの学術的な調査と住民の生活文化や歴史を関連付け、湯沢市に根付いたジオストーリーを構築します。

②一歩進んだ取り組みの実施

- ・多言語に対応したパンフレットやガイドブック、ホームページなど、世界を意識した情報発信を行います。
- ・全ての湯沢市民が、自分の住んでいる地域のジオサイトを自分の言葉で

説明できるような体制を作ります。

- ・ ジオツアーなどでお客様を向かえる側のホテルやタクシー、商店街向けのジオツアーや説明会を開催し、ジオサイトを説明できる体制を作ります。
- ・ ジオサイトを案内できるガイドを養成するための講座を開催します。
- ・ 湯沢市のジオパークを学ぶ機会を数多く作り、地元のすばらしさを理解してもらおうとともに、多くのジオガイドを養成するために、湯沢市ジオパーク検定制度を作ります。

③運営母体の組織強化と市民の盛り上がり

- ・ 推進協議会の各部会の独立性を高め、各部会で独自事業を展開できるような体制作りを図ります。
- ・ ジオパークの拠点施設を整備し、推進協議会が管理運営します。
- ・ (仮称) ジオパーク応援隊の組織強化を図り、市民側からの新しい事業展開を行います。
- ・ 自分の住む地域のジオサイトのすばらしさを理解してもらうため、町内会単位での説明会を行い、「おらだのジオサイト」という意識を高め、自らがジオサイトの保全や環境整備に関わるように啓蒙活動を行います。
- ・ ジオパーク関連商品の開発を促し、産業への展開を図ります。

④加盟申請

- ・ 上記の取り組みを行い、機が熟した段階で、世界ジオパークへの申請を行います。

【フロー図】

実施項目	実施年度				
	H24	H25	H26	H27	H28
①ジオサイトの磨き上げ、物語への肉付け					
②一歩進んだ取り組みの実施					
③運営母体の組織強化と市民の盛り上がり					
④加盟申請					

(3) ジオパークの継続整備のために

日本ジオパークも世界ジオパークも、認定＝事業終了ではありません。どちらも4年に1度、再評価が行われます。毎年、一歩ずつでも成長していくこと

がジオパークには求められます。

ジオパークへの取り組みは、まちづくりと同一であり、目指すべき目標としてしっかりとした計画を立てることが必要です。

湯沢市が一丸となって、計画的かつ継続的な整備と活動を行うことが重要です。

みんなで目指そう！世界ジオパーク！！



美の郷ゆざわジオパーク構想

平成23年7月

- 発行 湯沢市ジオパーク推進協議会
- 編集 湯沢市ジオパーク構想策定委員会
〒012-8501
秋田県湯沢市佐竹町1番1号
TEL : 0183-73-2111
FAX : 0183-79-5057